

平成17年度第1回運営委員会議事要旨

1. 日 時 平成17年6月20日（月）10:00～12:20

2. 場 所 キャンパス・イノベーションセンター「多目的室2」

3. 出席者 委 員：会長（議長）三浦 和
芦崎隆夫、池田由紀江、大沼直紀、加我牧子、香川邦生、近藤弘子、
坂田紀行、志賀 力、中村満紀男、西川公司、塙 忠蔵、林 茂和、
皆川春雄、矢野重典
文部科学省：山下和茂特別支援教育課長
研 究 所：小田理事長、鎌田理事、西嶋監事、山本総務部長、
後上、笹本、小塩、渥美、千田、西牧、中村 各総合研究官 他

4. 議事の審議経過概要

- 理事長挨拶
- 山下課長挨拶
- 運営委員等の紹介
- 配付資料の確認
- 前回議事要旨の確認
- 議事

（1）外部評価（研究活動）の結果について

会長（議長）から、本委員会に設置している外部評価部会において今回も精力的に評価が行われ、この度その結果がまとまり、香川部会長から報告を受けた旨報告があった後、香川部会長から、資料3に基づき外部評価結果について内容の説明があった後、意見の交換があった。

主な意見は以下のとおり。

- プロジェクト研究、課題別研究とは、どういう性格なのか。研究テーマの設定方法については、どのようにしているのか。
- プロジェクト研究については、規模の大きいプロジェクトチームを作り、政策的な課題や喫緊の課題に対応するものであり、3年程度を目安に研究を行っているものである。
課題別研究は障害種別の研究部が組織再編により無くなった関係で、障害種別のチームを組み、研究を申請し、教育委員会等のニーズを踏まえ、優先度を付けて採択し、実施している。
研究テーマについては、所内から上がってきた課題について、教育委員会・教育センター等にアンケート調査をしながら、最終的に本省と話を詰めて決定している。

（2）平成16年度事業報告について

事務局から、資料4に基づき内容説明があった後、意見の交換があった。

主な意見は以下のとおり

- 教育相談は何歳まで実施しているのか。また、どこまでが教育と位置付けられるのか。
- 年齢は特段規定していないが、自閉症の子の就労後の相談や、高等学校卒業後の相談などに対応しており、内容に応じ、それぞれ地元の他の機関を紹介するように努めている。
- 教育相談に係る地域関連機関との連携について、ナショナルセンターとして一定の地域と連携しているが、地域のニーズが大きいのか。教育相談に関する見解を全国に還元してはどうか。
- 教育相談に関しては、地元を核として実施することが基本であることから、本研究所についても、地元の相談機関の一つとして活用されてきた面は否めない。しかし、現在、

横須賀市等と地域における総合的な教育相談支援体制の構築に係る共同研究を実施しており、まずは、この横須賀を中心とした地域を一つのモデルとして教育支援体制を構築し、その成果を全国に還元していきたいと考えている。

- 教育支援研究部の役割で、4つの担当区分で活動を実施してきたとあるが、医療・福祉連携担当の現在実施している内容を教えてほしい。
- 現在実施している医療・福祉連携に関するプロジェクト研究や課題別研究の主要メンバーとなっている。医療・福祉連携担当には、旧病弱教育研究部のメンバーが加わり、また、個別の教育支援計画のプロジェクト研究では、医療・福祉の連携に係る研究を行っているほか、共同研究では横須賀市及び県立大学と連携し、地域における保健・福祉との連携による支援体制の構築等の研究を実施している。
- 全国の聾学校の校長が異動で40数%変わってしまう。また聾学校が複数ある県は非常に少なく、高等学校から転任してくる方は聴覚障害のことに関し、理解されていない。聾担当の特殊教育センターのプロパーが少なく、特殊研に頼るケースが多い。教育相談センターとして全国レベルで支援を実施して欲しい。また、教職員への支援の部分を、事業報告書でもっとアピールしてもいいのではないか。
- 教育支援研究部の業務内容では、4つの担当区分が書いてあるが、障害別の専門性が弱くなるのではないか。教育相談センターのような4つの系の方がわかりやすいのではないか。
- 総括主任研究官のレベルに障害種別担当を置き、特別支援教育体制に向けチームで課題に対応している。障害種別の専門性を損うことのないよう、今後も組織の在り方について検討していきたい。

(3) 国立特殊教育総合研究所の組織及び業務全般の見直しに係る検討について

事務局から、資料5及び6に基づき、見直しにかかるスケジュール、総務省行政評価局補佐級ヒヤリングの内容及び次期中期計画について説明があった後、意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

- 大学の研究は、頭でっかちになりがちであり、研究所には、教育相談を基にした実際的な研究を期待している。研究所の実際的な研究の成果を全国に広めてもらうとともに、事例などを含めた先進的な研究を進めて欲しい。来る人を待つのではなく、現場に出かけて行って研究を広めて欲しい。

(4) その他

特になし

以上